



校
訓

理想は高く
心清らかに

教育
目標

未来を拓く、心豊かな心身ともにたくましい
生徒の育成 ~感性を磨き自立を育む教育~

再び食のこと



今年度はPTAの母親部会で「食育」をテーマに活動をされるとお聞きしました。確か、今日アンケートが出されると思います。そこで、今回も第3号と同じように「食」について書いてみたいと思います。

私は1988年から1991年まで3年間チェコスロバキアのプラハ日本人学校に勤めておりました。ソ連消滅、ベルリンの壁崩壊、湾岸戦争勃発、そういった激動のヨーロッパ時代に家族で住んでおりました。そこで経験したことで、「食」に関わることを少しお話させていただきます。

チェコには緑豊かな美しいボヘミアの森があちこちに点在しておりまして、チェコ人は「森の民」と言われるくらい昔から森との関わりが深かったようです。森の中にはいろいろなキノコが自生していますので、ずいぶん昔からチェコの人々に食されていたようです。

プラハでは借家住まいでしたが、大家さんのお宅にはおじいさん、おばあさんの時代からの古い手あかの付いたキノコの図鑑や本が大事に並べられておりました。今でも大切に使われていますが、チェコの家はどこでもそうですよとのことでした。だからでしょう、大人も子供も「キノコ博士」と言っているくらい詳しい知識を持っているんです。

キノコの時期には週末ともなりますと大勢のチェコ人がボヘミアの森に入り、キノコ狩りを楽めます。私の家族も大家さんによく連れて行ってもらいました。毒キノコと食べられるキノコの区別がつかない私の家族は、ほとんど毒の方ばかり見つけて、「また毒げなばい!」、「また、また毒げな!」と球磨弁を連発しながら失望感ばかり味わっておりました。それでも、たまに食べられるのを見つけると宝物を見つけたみたいに、大はしゃぎです。

取ってきたキノコは他の食材と混ぜてキノコスープを作るんです。その味は一度食べたらくせになるくらいおいしいものでした。私が大家さんのお宅を訪問するたびに感心したのは、スープを作っている奥さんのそばに、いつも娘さんの姿を見かけたことです。大家さんによりまして、チェコではキノコスープの味は昔からその家に伝わっている独特なものなので、奥さんがいつも娘さんに味付けを教えているとのことでした。

母が子に伝え、子が孫に伝え、孫がひ孫に伝えていく。「食の伝承、食の伝え」が脈々となされ、それぞれの家庭の食文化が受け継がれていくわけです。とても素晴らしいことだと思います。

日本にも「我が家の味」とか「お袋の味」というものがありました。が、「コンビニ」や「ほか弁」等の普及により、だんだん失われていっているのではないのでしょうか。便利にはなりましたが、寂しいことでもありますね。「食育」に関連してお話しさせていただきました。